Liberation

東雲　陽葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｌｉｂｅｒａｔｉｏｎ

【Ｎコード】
Ｎ２５３１Ｚ

【作者名】
東雲　陽葉

【あらすじ】
理性の欠片もないドラゴンが跋扈する死の世界に生き残った数少ない人間の一人。いつ死んでもおかしくはない世界だがその人間が実はドラゴンにとってとても重要な人間だった。

1話目（前書き）

残酷描写のチェックがありますが世界設定がそうであるだけで内容そのものにはあまり触れないつもりなので駄目な人でもたぶん平気だと思います。

1話目

草木も生えない焼け野原しかこの世界には無かった。
あまりに何度も焼かれ続けているので新しい緑が芽吹くこともない枯れた大地だけ。
人口も総勢して何人いるかなんてわからないが兆はおろか億もいないだろう。
そんな数少ない人間が生きるには火が届かない水の中だけ。
だから人々の多くは水辺に住んでいた。
食べ物も水中にあるものだけ。
そんな中に生きているからこそ、人々はどんどん息絶えていった。
日々人は死んでいく。
新たに生まれる命もまたおおよそすぐに息絶える運命にあった。

しかし、幸運と言えばいいのか、ある意味不運なのか、生まれおちてすぐに両親を亡くしたものの、生きつないだ一つの命があった。
すべてを焼き尽くしてしまう炎と同じ赤い色をした髪の小さな女の子。

「うぅん・・・」

少女が目をぱっちりと開けると暗い世界がそこに広がっていた。
少女はただ一人。
彼女の愛した人はもういない。

「っ」
ガアアアアア！！
遠くから恐ろしい咆哮が聞こえた。

少女は条件反射のようにパッと横たえていた体を起して走り出した。
逃げなければ死んでしまう。
ここの近くには川が、水がないことが致命的だった。

ギャアアア！！

声がどんどん近付いてきている。
立ち止まることは厳禁。
立ち止まったら死あるのみ。
何人もの人間があの空の化け物に殺された。
少女はまだ生まれて１５年程度だが化け物に殺される様を何度も見てきた。
いや、この世界において少女の年齢に関してまだというのは適切ではない。
もう、１５なのだ。
世界の平均寿命は少女くらい生きれば十分なくらいである。

「なっ！？」

どのくらい走ったのだろうか。
少女にもわからないくらい走り続けていたら急に眼の前を過ぎる影があった。
影は小さく、ただでさえ栄養が足りてなくて小さな少女よりもはるかに小さな姿だった。

「な、なに！？」

少女はとりあえずとっさにその影をひっつかんで腕に抱えて逃げた。
一瞬のやり取りで手間取ったおかげで化け物はさらに近づいていて、もう少女たちの頭上にまで迫ってきていた。

「ま、まずいっ」

化け物の口が開かれるのを少女は見た。
少女は影が来た方向を見やるとすごく小さな穴を見つけた。
少女が入れるかどうかわからないくらいの小さな穴で、少女はその穴に飛び込んだ。

「キャアア！！」

タッチの差で炎が地面を焼く。
穴の中にも炎が侵入しようとしていたが少女は首元で十字を切る。
すると入口は淡い青い色で光ると炎はそれ以上侵入してこなかった。

「はっ、はっ」

ドッドッドッと高鳴る胸を腕に抱いたもので押さえて穴から外を見る。
空を舞う化け物がいてしばらくここから出られないようである。
ひとつ長い息をつくとそこで初めて腕の中のものを見た。

「何かしら、これ・・・」

とっても小さな毛むくじゃらの獣。
尻も顔も真っ赤なヘンテコな生き物だった。
少女は人間と化け物、そして食べ物となる魚介類以外の生き物を見たことがなかったのでそれが何なのか知らなかった。

「キーッ！」
「ひゃっ」

身震いして急に暴れだしたので思わず手放す。
ちょっと距離をとって獣と同じように四足をついてこちらを見るので少女は同じように両手を地面につけてまじまじと小さい獣を見た。
よくよく見ると人と同じように5本の指がある。
信じがたいが今まで見た獣の中で一番人に近い姿であった。

「お前、何なの？」

当然獣が言葉をしゃべるわけではないので答えはない。
しかし問いかけられずにはいられなかったのだ。
少女は変なのと呟いてそっと外を見やった。
炎はおさまっていたが穴から覗く空にまだあれがいる。
どうやら今日はここで夜を明かした方がいいらしい。
少女は狭い穴の中で少し身じろぎをして居住まいを正すと少しでも体を休める体勢に変える。
この時、獣と一緒では獣が襲ってくる危険性もあったのだがあんなに小さいなりではどうにもできないと少女は自己完結していた。
獣も獣で少女からちょっとの距離を取っただけでそのまま自分も眠ってしまった。

1話目（後書き）

ぜんぜんもう一つの方が進んでいないのにこっちだなんて・・・
勝手な人間なので許してください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2531z/

Liberation

2011年12月8日23時47分発行